

1 災害の危険性等を「知る」 「災害が発生していない時」に災害から命を守るために「知っておくべき事」を知る

県民行動	県民・自主防災組織等の具体的な行動内容	県民・自主防災組織等を支援する取組		
		これまでの取組	課題	新たな取組（案）
住んでいる 所や日常活動している 所の周りで 想定される 災害の危険 性を知る	〔県民〕 地域の危険性を知る ・土砂災害危険箇所，土砂災害警戒区域・特別警戒区域，洪水・高潮・津波浸水想定区域等の確認 ・ハザードマップの確認 ・地震被害想定の確認 ・過去に発生した災害と災害から得られた教訓の確認 等	災害危険箇所等の周知 ◎広島県防災 Web による周知 ・<u>広島県防災 Web に災害危険箇所等を掲載し，広報誌，防災教室等による周知【県】</u> （土砂災害危険箇所，土砂災害警戒区域・特別警戒区域，洪水・高潮・津波浸水想定区域等） ◎ハザードマップによる周知 ・<u>各戸配布，広報誌，ホームページ，防災教室，出前講座，防災訓練，住民説明会等によるハザードマップの周知【市町】</u> ○土砂災害危険箇所等の周知 ・土砂災害警戒区域・特別警戒区域の指定に係る基礎調査の実施と調査結果の説明会及び県ホームページでの公表【県】 ・土砂災害警戒区域等の指定地域への説明会【県】 ○地震被害想定・津波浸水想定・ため池浸水想定の周知 ・住民説明会での周知【市町】 ・一斉防災訓練の参加者への周知【県】 ・ため池管理者等住民説明会での周知【県，市町】 ○過去に発生した災害の伝承 ・広島県防災 Web に過去の災害記録を掲載（地域の砂防情報アーカイブ，広島県の砂防資料館等）【県】 ・一部の自主防災組織において，地域の高齢者の災害の体験談を聞き取り，防災マップへ反映 ○防災の専門家の派遣 ・自主防災組織等が防災マップの作成や災害危険箇所把握等の活動をする際に，県に登録している防災の専門家を派遣【県】 ・まち歩き，ワークショップのやり方などを掲載した自主防災組織の活動マニュアルの周知・活用【県】	・<u>広島県防災 Web</u>（土砂災害ポータルひろしま，広島県河川防災情報システム，高潮・津波災害ポータルひろしま）<u>の存在について，効果的な広報を行っていないため存在を知らない人が多く，災害危険箇所等を確認した人も限られる。</u> ・<u>ハザードマップの存在を知っているが，ハザードマップで災害危険箇所等を確認した人が限られる。</u> ・地域において，過去に発生した災害の教訓が伝承されていない。 ・県に登録している防災の専門家の人員が不足している。 ・自主防災組織の活動に防災の専門家が活用されていない。	○広島県防災 Web の周知 ・広島県防災 Web を知ってもらうため，<u>広島県防災 Web 関係サイトの掲載情報等を盛り込んだパンフレットの作成と広報</u> ○災害危険箇所等の周知 ・出水期前等の効果的な時期での集中的な広報（マスコミ，県・市町の広報誌，<u>新聞折り込みチラシ</u>） ・<u>高齢者，女性など対象を明確にした防災教室，出前講座等の開催</u> （広島県防災 Web やハザードマップを活用した<u>災害危険箇所等の確認方法や注意点及び地域内で過去に発生した災害事例等を説明</u>） ・<u>企業，団体等が実施する防災教室等において，ハザードマップ等を利用した災害危険箇所の周知</u> ・<u>生活動線上におけるハザードマップ等を掲示した災害危険箇所の周知</u>（駅，商店街，病院の待合室等へのハザードマップの掲示） 報 ・地域における先進的な取組事例を，広島県防災 Web 等での紹介及び自主防災組織の活動マニュアルに掲載するとともに，防災教室等でも紹介 ・防災の専門家の継続的な育成 ・防災の専門家等の活用事例を自主防災組織の活動マニュアル等に掲載するとともに，自主防災組織に対し，専門家の積極的な活用を働きかける
	〔自主防災組織等〕 地域の危険性を共有する ・地域住民でまち歩きを行い，地域の危険箇所等を共有 ・ワークショップの開催（防災マップの作成） ・過去に発生した災害と災害から得られた教訓の伝承 等			

1 災害の危険性等を「知る」

「災害が発生していない時」に災害から命を守るために「知っておくべき事」を知る

県民行動	県民・自主防災組織等の具体的な行動内容	県民・自主防災組織等を支援する取組		
		これまでの取組	課題	新たな取組（案）
災害の種類に応じた適切な行動をとるために必要な情報を知る	〔県民〕 避難行動に必要な情報を知る ・災害の種類に応じた避難場所の確認 ・避難経路や避難方法を確認 （家族防災会議の開催，我が家の避難計画の作成） 避難のタイミングを自ら判断するために必要な情報の意味，入手方法を知る ・注意報・警報，土砂災害警戒情報，土砂災害危険度情報の意味と取るべき行動等 ・避難準備情報，避難勧告，避難指示の発令基準 等	災害の種類に応じた避難する場所等の周知 ◎避難場所等の周知 ・広島県防災 Web，ハザードマップに避難場所等を掲載し，<u>広報誌，防災教室，出前講座等による周知を実施【県，市町】</u> ◎避難経路，避難方法等の確認 ・<u>出前講座や防災訓練を通じて，住民が自ら，避難場所，避難経路，避難方法を確認するように促す【市町】</u> ◎避難場所へ災害の種類を明示した看板の設置【市町】 避難のタイミングの判断に必要な情報の意味，入手方法の周知 ◎広報誌等による周知 ・<u>広報誌，ホームページ，防災教室，出前講座，ケーブルテレビ等を通じた，避難の判断に必要な情報と取るべき行動等の周知【市町】</u> ◎広島県防災 Web による周知 ・広島県防災 Web による <u>気象情報等の活用方法等の周知【県】</u> ◎防災情報メールの登録促進 ・<u>パンフレット，広報誌，防災教室，出前講座，防災訓練等を通じた防災情報メールの登録促進【県，市町】</u> ○防災意識・知識の向上 ・まち歩きの際に，災害が発生しそうな場所等を確認するためのチェックリストを掲載した自主防災組織の活動マニュアルの周知・活用【県】 ・自主防災組織等が実施する訓練等を通じた危険箇所等確認【県】 ○避難行動要支援者の避難支援 ・避難行動要支援者の名簿等の作成 ・民生委員等との連携による避難行動要支援者の把握【市町】	・災害の種類に応じた避難場所について効果的な広報を行っていないため，知らない人が多い ・<u>災害の種類に応じた避難場所の周知にとどまらず，災害の種類に応じた避難方法，避難経路などを住民に確認してもらう必要がある。</u> ・地域により取組手法が異なるため，<u>看板の設置が一部の市町に限られている。</u> ・注意報・警報，土砂災害警戒情報などの情報の意味について，<u>広報誌などの画一的な情報だけでは住民の十分な理解が得られるまでには至っていない。</u> ・広島県防災 Web の存在について，<u>効果的な広報を行っていないため存在を知らない人が多く気象情報等が有効に活用されていない。</u> ・県及び市町の<u>防災情報メールに登録している人が少ない。</u> ・地域内にどのような災害の危険性が潜んでいるのか，知らない人が多い。 ・市町から自主防災組織へ避難行動要支援者の個人情報を提供することが困難	・出水期前等の効果的な時期での集中的な広報（マスコミ，県・市町の広報誌，新聞折り込みチラシ） ・高齢者，女性などを対象とした防災教室，出前講座等の開催 （<u>広島県防災 Web やハザードマップを活用した避難場所や避難経路等の確認方法や注意点等を説明</u>） ・<u>災害の種類に応じた避難場所を住民に確認してもらうための仕組み，仕掛けの検討</u> （例：看板，幟，表札等） ・<u>防災ハンドブックを作成（わかりやすい言葉辞典）し，広島県防災 Web へ掲載し，市町，企業等の活用を促進</u> ・高齢者，女性などを対象とした防災教室，出前講座等を開催し，<u>ハンドブックを活用して必要な情報の意味や入手方法を確認</u> ・広島県防災 Web サイトの活用を促進するため，<u>掲載情報を盛り込んだパンフレットによる広報，啓発の促進</u> ・<u>広島県防災 Web 等を分かりやすいものに改良（ガイドンス機能，表示の改善等）</u> ・<u>携帯電話契約時における周知・登録の促進</u> ・自主防災組織に防災の専門家を派遣し，まち歩き等により地域の危険を知る方法を習得 ・自主防災組織による地域の危険を知るための活動方法を活動マニュアルに掲載し，他の組織へ伝播 ・地域における配慮のいる人についての自主的な名簿づくり等が進んでいる地域の事例を収集し，自主防災組織の活動マニュアルへ掲載するなどによる普及促進
	〔自主防災組織等〕 地域における避難行動に必要な情報を知る 避難する際に支援が必要な人を把握			



2 災害発生をいち早く「察知する」

「災害が発生しそうな時」に災害から命を守るため「適切な行動をとるために必要な情報」を察知する

県民行動	県民・自主防災組織等の具体的な行動内容		県民・自主防災組織等を支援する取組		
			これまでの取組	課題	新たな取組（案）
危険を知らせる前ふれや気象・防災情報を速やかに察知する	[県民] 避難行動に必要な防災・気象情報を多様な手段で入手する 【情報の種類】 ・雨量，解析雨量，水位 ・降水予測（降水短時間予報・降水ナウキャスト） ・土砂災害警戒判定メッシュ情報 ・注意報，警報，土砂災害警戒情報，土砂災害危険度情報 ・避難準備情報・避難勧告・避難指示 ・緊急地震速報等 【情報入手の手段】 ・テレビ（データ放送），ラジオ等，コミュニティFM ・インターネット（パソコン・携帯電話・スマートフォン等） ・県・市町等の防災メール ・防災無線・サイレン 等		迅速かつ確実な住民への防災・気象情報の伝達 ◎広島県防災 Web による防災・気象情報の伝達 広島県防災 Web に防災・気象情報を掲載し，<u>広報誌，防災教室による周知【県】</u>（雨量，解析雨量，水位，降水予測（降水短時間予報・降水ナウキャスト），土砂災害警戒判定メッシュ情報，注意報，警報，土砂災害警戒情報，避難準備情報・避難勧告・避難指示 等） ◎避難勧告等の防災情報の住民への周知，伝達 ・公共情報コモンズを通じた<u>テレビのデータ放送やメールマガジン等により住民へ周知【県】</u> ・緊急速報メール，<u>防災行政無線，サイレン，広報車，防災メール等</u>を通じて<u>住民へ伝達【市町】</u>	・<u>広島県防災 Web（土砂災害ポータルひろしま，広島県河川防災情報システム，高潮・津波災害ポータルひろしま等）の存在について，効果的な広報を行っていないため存在を知らない人が多い。</u> ・<u>インターネットが使える環境にない人，屋外スピーカーで情報を入手できない人に対する情報の伝達手段について，検討する必要がある。</u> ・<u>停電時における情報伝達手段の確保</u>	・<u>広島県防災 Web 関連サイトの活用を促進するため，掲載情報を盛り込んだパンフレットによる広報，啓発の促進</u>
	[自主防災組織等] 災害発生の前ふれ等の危険情報を得た場合には，地域住民に伝達 ・災害発生の前ふれ（急に川の水が濁り，流木が混ざり始める，地鳴り・山鳴り，腐った土や木のおいなど） ・ペットボトルやバケツなどで雨量を把握		○地域住民への伝達 ・地域における電話連絡網等による連絡手段の整備や通報・伝達訓練の実施	・自主防災組織自らが連絡手段や連絡網を整備していない地域が多い。	・住民に防災情報を確実に伝達するため，<u>停電時の対応方策や防災ラジオ，ケーブルテレビ等の活用事例の紹介，支援により，防災情報の伝達手段を確保</u> ・<u>フェイスブック，ツイッター等のSNSの活用による情報発信機能の強化</u> ・<u>防災情報の伝達手段，情報発信のツールとして緊急速報メールの積極的な活用</u> ・自主防災組織に防災の専門家を派遣し，地域での連絡手段の整備手法等を習得 ・連絡手段等の整備を行っている自主防災組織の事例を収集し，自主防災組織の活動マニュアルへ掲載するなどの普及啓発を促進

3「判断」して適切に「行動する」

「災害が発生しそうな時」に災害から命を守るため「判断して適切に行う行動」

県民行動	県民・自主防災組織等の具体的な行動内容	県民・自主防災組織等を支援する取組		
		これまでの取組	課題	新たな取組（案）
判断して適切に災害から命を守る行動をとる	[県民] 災害から命を守るための行動 ・避難勧告等にかかわらず自分の判断で行動する ・揺れを感じたら、机の下に身を隠す、窓ガラスから離れる ・津波警報が発表されたときは、速やかに津波避難ビルや高台等の安全な場所へ避難する ・海岸や増水した河川、水路、ため池に近づかない ・大雨の際は、地下やアンダーパス等への進入を避ける 災害の種類に応じた行動 【行動の種類】 「立退き避難」：安全な場所への移動 ・災害の種類に応じた避難場所への避難等 「屋内安全確保」：屋内での待避等の屋内における安全確保 ・頑丈な建物の上階への「垂直移動」	災害から命を守るために必要な行動等の習得 ◎一斉防災訓練（地震） 地震発生時に命を守る行動（しゃがむ、隠れる、待つ）を県内一斉に実施【県】 ◎避難訓練（風水害等） 土砂災害等を想定し、避難行動に必要な情報を入手し、避難場所への避難を実施【市町】 ○災害から命を守るために必要な設備等の整備 ・災害の種類に応じた避難場所の確保【市町】 ・避難行動を支援するための看板の設置（避難場所、避難路、標高等）【県・市町】 ○災害の種類に応じた適切な行動パターンの周知 ・風水害、地震、津波等、災害の種類に応じた避難の方法について防災教室等を通じて周知【市町】 ○防災教室 ・地域で命を守る必要性を防災教室、出前講座等で周知【市町】 ○防災訓練 ・自主防災組織の活動マニュアルを活用等による訓練の支援 ・自主防災組織と消防団との連携により行う避難訓練の実施【市町】	・一斉防災訓練では、学校、企業・団体、自主防災組織等に参加の呼びかけを行っているが、学校以外の参加が少ない。 ・一度、訓練に参加して、防災に関心を持った人が、引き続き、それぞれの居住地域で防災活動に参加してもらう仕組みがない。 ・訓練を実施することを知らない人が多く、参加者が限られる。 ・自らが判断して適切に行動できるようにするための訓練内容になっていない。 ・避難場所としての適地が確保できない地域がある。 ・自宅が安全だから行動をとらない、災害が自分の身に起こることを想定していないなどのため、災害の種類による避難行動、避難場所、方法の違いを知らない人が多い。 ・防災教室等の開催には、頻度や地域の偏りがある。 ・町内会や自主防災組織への参加率が低いなど、地域の繋がりが希薄になっており、災害時に助け合うことが難しくなっている。	・企業、経済団体、自主防災組織、消防団等に対して参加を働きかけることに加え、新たに、業界団体、老人会や女性会等地域団体などへの参加を働きかけ ・訓練参加者が、地域で継続的に防災活動に参加できるよう、マスコミ、ホームページ、広報誌等を通じ、市町や自主防災組織等の訓練計画を周知 ・自ら判断して行動することを促すような訓練メニューの追加等の工夫 ・セキュリティやプライバシーに配慮しつつ、民間企業・マンション等との協定締結を促進することにより避難場所を確保 ・防災教室等を通じて、設置された看板を確認しながら災害の種類に応じた避難場所や避難経路を住民に理解してもらう ・防災教室や広島県防災 Web などあらゆる広報手段を活用して、災害はいつでもどこでも起こり得るなど、県民の意識を変革させる取り組みを行う ・高齢者、女性など対象を明確にした防災教室、出前講座等による普及啓発 ・防災の専門家を派遣し、災害事例等を紹介するなどにより、地域住民に地域で命を守る必要性を理解してもらう
	[自主防災組織等] 地域住民全体で災害から命を守る行動をとる ・互いに声をかけながらの避難 ・隣近所で助け合う「互助」の取組み ・近所の人と一緒に避難 ・近所の人への安否確認 ・避難行動要支援者への支援			

4 災害を「学ぶ」

「災害が発生していない時」に災害から命を守るために「知っておくべき知識や行動を学ぶ方法」を学ぶ

県民行動	県民・自主防災組織等の具体的な行動内容	自助・共助を支援する取組		
		これまでの取組	課題	新たな取組（案）
防災教室等で学ぶ	[県民] 学校における防災教育で学ぶ ・地域の自然環境，災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。 ・状況に応じて的確な判断の下に，自らの安全を確保する行動ができるようにする。 ・進んで他の人々や集団，地域の安全に役立つことができるようにする。 防災教室等で学ぶ ・地域で開催される防災教室や防災講演会で学ぶ ・Web や書籍など多様な手段で学ぶ	防災教育 ・「防災教育の手引」を活用した「防災に関する授業」を実施 ・町内会，自主防災組織等と連携した防災訓練を実施 ・専門機関による出前講座を活用した授業を実施 ・防災教育を推進するための教職員研修を実施 防災教室 ・地域の希望による防災教室【県，市町】 ・小学生と家族を対象とした防災教室【県，市町】 ・風水害，地震，津波等，災害の種類に応じた避難の方法を防災教室にて周知【市町】 ・県防災拠点施設において，見学者に対する防災教室，空の日まつり（広島空港のイベント）の場を利用した防災教室【県】	・学校において，<u>防災教育を推進するための専門機関や専門家と連携した授業が不足している。</u> ・防災教室等の開催には，開催頻度や地域の偏りがある。 ・不特定多数を対象とした防災教室では，一般住民の参加が少ない。 ・女性，高齢者等の対象者別の教材やカリキュラムがない。 ・市町や自主防災組織による防災教室の開催には限界がある ・自宅が安全だから行動をとらない等，災害が自分の身に起こることを想定していないため，災害の種類による避難行動，避難場所，方法の違いを知らない人が多い。 ・防災教室を通じて，防災に関心を持った人が，自分の住んでいる地域に戻ってから継続的に防災を学ぶ場や活躍する場が提供できていない。	・学校の立地環境や過去の災害状況等を踏まえた専門機関等を活用した授業，<u>防災訓練を実施する。</u> ・<u>先進校における取組事例を他の学校へ広げていく。</u> ・他の集客イベントとの組合せにより，家族ぐるみで楽しめる参加しやすい環境づくり。 ・ゲーム感覚で防災を学ぶ防災ダック等の貸し出し ・運動会の種目へ避難訓練を組み込む ・マスコミ，ホームページ等を通じ，市町や自主防災組織等の訓練計画を周知 ・対象者別（子供，大人，企業等）の教材，カリキュラムの整備 ・学生ボランティアとの共催による防災教室 ・防災カレッジの開催 ・企業や団体が実施している社内研修項目に防災を組み込むよう要請 ・防災教室や広島県防災Web などあらゆる広報手段を活用して災害はいつでもどこでも起こり得るなど，県民の意識を変革させる取組みを行う ・参加者が地域で継続的に防災活動に参加できるよう，マスコミ，ホームページ，広報誌等を通じ，市町や自主防災組織等の訓練計画や防災教室を周知
防災訓練等で学ぶ	[県民] 地域で開催される避難訓練（防災訓練）へ参加し，実践的な行動力を身につける [自主防災組織等] 避難訓練（防災訓練）の開催	○総合防災訓練や避難訓練などの実施【県，市町】	・訓練参加者が主体的に訓練に取り組む動機づけが弱い訓練内容となっている。 ・県民が，災害時における実践的な行動力を身につける訓練内容が十分に組み込まれていない。	・実践的な行動力が身につく内容となるよう訓練種目の改良を検討 ・自主防災組織などの身近な地域での訓練内容に「自ら考えて行動する」要素を盛り込んだ訓練内容を検討

5 災害に「備える」

「災害が発生していない時」に災害から命を守るために「備えるべきものなど」の備え

県民行動	県民・自主防災組織等の具体的な行動内容		自助・共助を支援する取組		
			これまでの取組	課題	新たな取組（案）
いざという時に命を守れるよう備える	[県民] 非常用持出品等を準備する ・懐中電灯，携帯ラジオ，常備薬，お薬手帳等 ・3日分程度（可能な限り1週間分）の食料・飲料水等を備蓄する 建物の耐震化を進める 家具の転倒防止対策等をとる ・災害時における家族内の連絡方法を決めておく ・防災について家族の役割を決めておく [自主防災組織等] ・食料・飲料水等を備蓄する ・耐震化や家具の転倒防止等の働きかけ		家庭等での非常用持出品等の備えの促進 ○防災フェアの開催等 集中取組期間（9月上旬，3月中旬）を設定し，店舗等で非常持出品や備蓄品の売出しを実施【県】（29企業・団体の886店舗が参加(H26.9)） 県ホームページ，チラシ等にて非常用持出品や備蓄の備えの周知 ○県ホームページ，防災教室，出前講座やイベント等を通じて，耐震化や家具の転倒防止対策等の必要性などを周知	・非常用持出品等の必要性の理解が進まないことから，実際に非常用持出品の準備をする人が少ない。 ・耐震化の方法や家具の転倒防止対策が住民に十分に理解されていない。	・企業，団体等と連携し防災フェア等での啓発の取組方法を工夫 ・集中取組期間での広報（マスコミ，県・市町の広報誌，新聞折り込みチラシ） ・防災教室，出前講座，イベント等を通じて，耐震化や家具の転倒防止策の必要性を実感・体感させる機会を提供 ・各種イベント等において，耐震化や家具の転倒防止策の相談窓口を設置等

5 災害に「備える」

「災害が発生していない時」に災害から命を守るために「備えるべきものなど」の備え

県民行動	県民・自主防災組織等の具体的な行動内容	自助・共助を支援する取組		
		これまでの取組	課題	新たな取組（案）
地域 の 人 の 繋がり に よ っ て 災 害 に 備 え る	地域の人の繋がりによって災害に備える [県民] ○町内会、自主防災組織等に参加する ・隣近所で助け合う「互助」 [自主防災組織等] ・地域での食料、飲料水等の備蓄 ・地区防災計画、津波避難計画の作成 ・防災意識の持続 ・情報連絡体制の整備 ・連絡網、連絡方法の多重化 ○地域における避難行動に必要な情報を知る	地域住民全体で災害から命を守るための備え ○自主防災組織を通じた加入促進【県、市町】 ◎自主防災組織の活動を活発化 ・自主防災組織の活動を活発化させるため、市町とともに防災士などの経験豊富な指導者とコンサルタントが一年間継続的に支援等を実施【県】 ○防災意識・知識の向上 ・まち歩きの際に、災害が発生しそうな場所等を確認するためのチェックリストを掲載した自主防災組織の活動マニュアルの周知・活用【県】 ・自主防災組織等が実施する訓練等を通じた危険箇所等確認【県】 ○地域住民への伝達 ・地域における電話連絡網等による連絡手段の整備や通報・伝達訓練の実施	・地域で防災リーダーとして活動する人が限られており、自主防災組織の活動を活発化させる取組みを全県に広げる必要がある。 ・まち歩きなどの実践的な取組みが不足しているため、地域内にどのような災害の危険性が潜んでいるのか、知らない人が多い。 ・自主防災組織自らが、連絡手段や連絡網を整備していない地域が多い。	・新たな地域の防災リーダーの発掘と育成 ・自主防災組織の活動が盛んでない地域に、防災の専門家を派遣し、活性化させる取組を加速 ・自主防災組織に防災の専門家を派遣し、まち歩き等により地域の危険を知る方法を習得 ・自主防災組織による地域の危険を知るための活動方法を活動マニュアルに掲載し、他の組織へ伝播 ・自主防災組織に防災の専門家を派遣し、地域での連絡手段の整備手法を習得 ・連絡手段等の整備を行っている自主防災組織の事例を収集し、自主防災組織の活動マニュアルへ掲載するなどの普及啓発を促進
	○災害発生の前ぶれ等の危険情報を得た場合には、地域住民に伝達（災害発生の兆候を知る） （前兆現象前に避難すること） ・災害発生の前ぶれ（急に川の水が濁り、流木が混ざり始める、地鳴り・山鳴り、腐った土や木のにおいなど） ・ペットボトルやバケツなどで雨量を把握 ○地域住民全体で災害から命を守る行動をとる ・互いに声をかけながらの避難 ・隣近所で助け合う「互助」の取組み ・近所の人と一緒に避難 ・近所の人の安否確認 ・避難行動要支援者への支援 ○避難行動要支援者の避難支援者や避難補助の方法等をあらかじめ定める ・避難行動要支援者の把握 ・民生委員等との連携による避難行動要支援者の避難体制の確保	○防災訓練 ・自主防災組織の活動マニュアルを活用等による訓練の支援 ・自主防災組織と消防団との連携により行う避難訓練の実施【市町】 ○避難行動要支援者の避難支援 ・避難行動要支援者の名簿等の作成 ・民生委員等との連携による避難行動要支援者の把握【市町】	・町内会や自主防災組織への参加率が低いなど、地域の繋がりが希薄になっており、災害時に助け合うことが難しくなっている。 ・市町から自主防災組織への避難行動要支援者の個人情報の提供が困難	・防災の専門家を派遣し、災害事例等を紹介するなどにより、地域住民に地域で命を守る必要性を理解してもらう ・地域における配慮のいる人についての自主的な名簿づくり等が進んでいる地域の事例を収集し、自主防災組織の活動マニュアルへ掲載するなどによる普及促進